

経営比較分析表（令和3年度決算）

佐賀県 唐津市

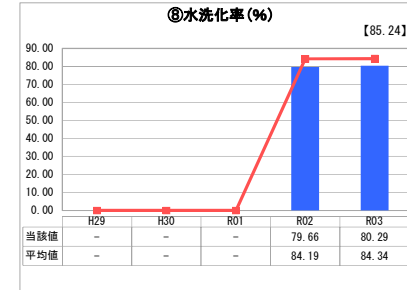
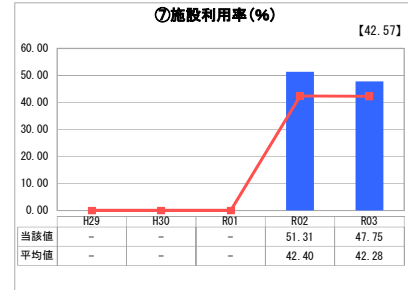
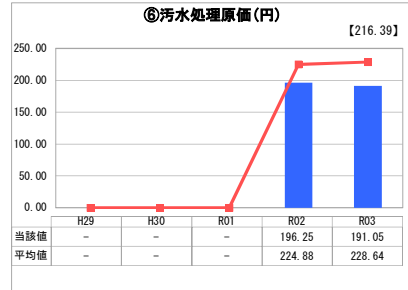
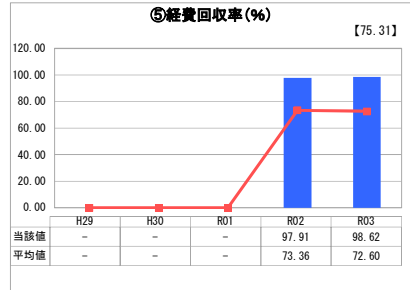
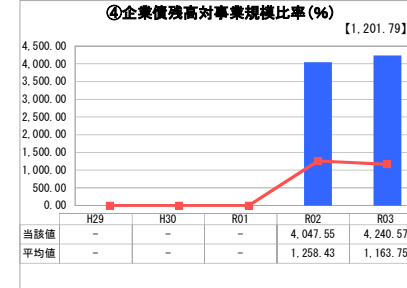
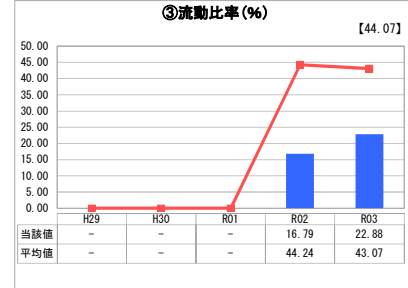
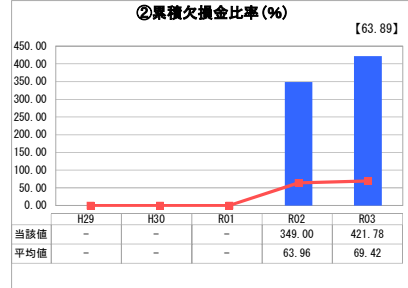
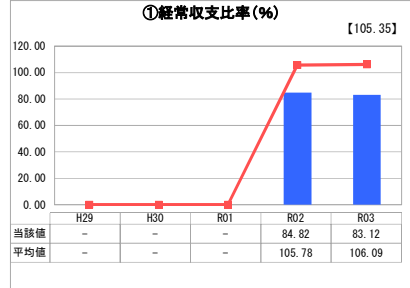
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金 (円)
-	39.09	12.03	99.62	3,300

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
118,400	487.60	242.82
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
14,168	5.60	2,530.00

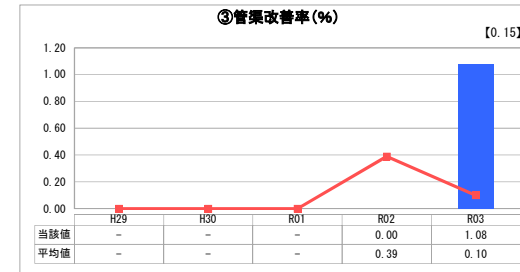
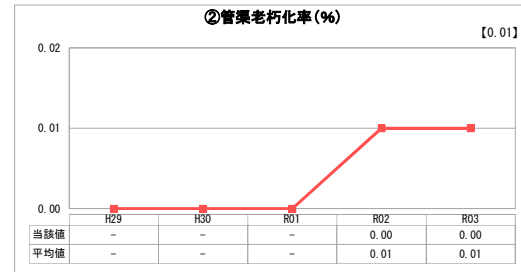
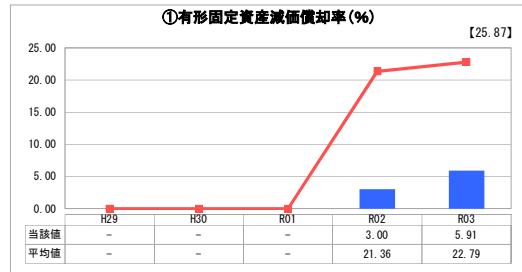
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率及び②累積欠損金比率については、令和2年度と比べて悪化している。理由としては、維持管理費は減少したが、料金収入が減少したこと、市の財政当局との協議により繰入金総額を減少させたことがあげられる。

③流動比率については、企業債元金償還金は増加したものの、内部留保に増額のみであったため、令和2年度よりもプラスとなっている。

④企業債残高対事業規模比率については、企業債残高は減少しているが、料金収入が減少したため令和2年度よりも悪化している。

⑤経費回収率及び⑥汚水処理原価については、料金収入の減少以上に維持管理費が減少したため、若干の改善が図られている。

⑦施設利用率については、処理能力には変更がなく、平均水量が減少しているため、令和2年度よりも低い数値となっている。

⑧水洗化率については、現在整備中の地区があるため、整備が終了した箇所から水洗化人口が増えているため、令和2年度より上昇している。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、減価償却累計額の増加により令和2年度よりも微増となった。

②管渠老朽化率については、耐用年数に達した管がないため0%となっている。

③管渠改善率については、令和2年度の実績がなく、令和3年度に改良工事を行っているため、前年度より高い数値となっている。

全体総括

○経営の健全性・効率性の部分において、今後維持管理費が減少していくことは考えやすく、未整備地区があるためある程度の料金収入の増は見込めるがそれだけでは不足すると思われる。現在令和6年度に使用料改定を行うこととしており、経営改善への足掛かりとしたい。

企業債については、現在整備中の下水道事業であるが、人口減少地区を含んでおり、料金収入も減少しているため、整備範囲について慎重に検討しながら、計画的な借入をおこなっていく。

施設利用率については、50%程度となっていることから、処理場の統廃合やダウンサイジングについても検討を行っていく必要がある。

○管渠の老朽化については、現状では低い数字となっているが、合理的な更新計画の策定及び更新に向けて内部留保の確保が必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。